

■身体的ハンディキャップにおける訓練(3/3)

試練や悩みにあった人で、自分は弱いために何の奉仕もすることができないと考えている人に対して、バニヤンは、その著『天路歷程』の中で、やさしい同情心を示している。「大勇」氏とその勇敢な仲間たち、すなわち、「正直」氏、クリスティアナとその勇気ある四人の息子たち、「あわれみ」、その他の人々が、偉大なる王の都に上って行く途中、「薄弱」氏に会う（バニヤンはこの薄弱ということばを、いわゆる精神薄弱ではなく、信仰の面における薄弱の意味に用いている）。「薄弱」氏はぐずぐずしている。このようなりっぱな旅人たちについて行くのをためらい、彼らに先に行ってほしいと頼むのである。

「ああ、私は自分に似つかわしい道づれがほしい。あなたがたはみな元気よくお丈夫のようですが、私はごらんのように弱い人間です。……私には欠けたところがたくさんありますので、ついて行くことは私自身にとって重荷になるばかりか、皆さんにご迷惑をおかけするようなことにもなるでしょう。……私はあまりにも弱い人間ですので、他の人たちなら辛抱できることにもつまずき、すぐ参ってしまうのです。私は無学なキリスト者で、真理のすべてを知っているわけではありません。……強い人たちの中にいる弱い人間、丈夫な人たちの間にいる病人、やっかいもの扱いをされる灯火、それがつまり私なのですから、私が皆さんのお仲間入りをすれば、じゃまになるばかりです。」

彼らが言い合っているところに、両手に松葉杖を持った「立ち止まりたがる」氏が通りかかる。彼もまた巡礼の途上である。薄弱氏は彼に話しかける。「私はちょうど今、私にふさわしい道づれがないので嘆いていたところなんですよ。あなたこそ私の望みどおりの方です。」「立ち止まりたがる」氏は薄弱氏の申し出を快く受け入れ、片方の杖を「薄弱」氏に差し出す。

この物語に見られるように、弱い者に対して、また疲れ果てた者に対して身体的ハンディキャップを負った者が示すほど深い思いやりと愛情を持つ者が、ほかにいるだろうか。

他の人々に愛を注ぎ、喜びや楽しさをもたらすことができるのは、「足の不自由な人」や「らい病人」だけではない。目の見えない人も、この世では見えないもの

を人々に見させることができる。あの有名な賛美歌「われを放たざる愛」（聖歌 282）の中に歌われていることばに感動しないキリスト者がいるだろうか。特に作者が目の見えない人であったことを思えばなおさらである。作者である故ジョージ・マゼソン牧師は、イギリスのエジンバラの神学博士であった。彼は、目は見えなくても、神の愛のくすしいみわざを見ることができ、人々にもそれを示すことができた。彼は信仰のゆえにあふれるほどの喜びを持ち、身体にハンディキャップのある友人に対し、また私たちすべての人に対して、こう言うことができた。

「あの足のきかない男が置かれていたのは、『美しの門』と呼ばれる宮の門のかたわらであった。無気力になるときには、このことを思い出すがよい。あなたの十字架の経験こそ、あわれみという名の宮に入る門であることを覚えてほしい。それが天国への唯一の門であると言うのではない。天国には多くの宮、すなわち多くの住まいがある。あなたはこの地上で訓練を受けることにより、かしこで自分の住むべき宮がどんなものであるかを知ることができるであろう。あなたはこの世で、探索好きな心を持っているかもしれない。かしこには、主の宮で尋ね窮めようとする熱心な人々がいる。あなたがこの世で与えられている賜物は、雄弁であるかもしれない。かしこには、主の宮で、主の栄光について語る人々がいる。あなたはこの世で、芸術家としての精神を持っているかもしれない。かしこには、主の麗しきを目の当たりに見ることのできる宮に住む人々がいる。あるいは、この世であなたに与えられていることは、低くされて横たわること、すなわち苦痛の床に伏すような境遇であるかもしれない。多くの先人が通ったこの門こそ、最も美しい門である。これはあなたが正しい奉仕をするための訓練なのだ。人にあわれみを示すという特技を身につけるための学校なのだ。あなたが今、この地上から飛び立って行くことができないのは、羽がまだ伸びきっていないからである。いつの日か、あなたはその羽をはばたかせて飛び立つことができる。」

目の見えないやみにあっても見ることができ、悲しみの谷にあって賛美し、身体的不自由さゆえの孤独の中にあって奉仕し、「十分である恵み」によって強められる—これが身体的ハンディキャップにおける訓練である。これによって私たちの霊性は美しく整えられ、またそれを通して他の人々の霊性も強められる。

【V・レイモンド・エドマン 人生の訓練 第九章「身体的ハンディキャップにおける訓練」より】

※この本は図書に置かれています。さらに読みたい方はどうぞご利用下さい。